

上田安子服飾専門学校

学校関係者評価報告書

(令和元年度)

基準日 = 令和2年3月31日

学校法人上田学園
上田安子服飾専門学校

I.学校法人上田学園 上田安子服飾専門学校 学校関係者評価報告書について

学校法人上田学園は、平成20年に、学校自己評価制度導入を図るために、自己点検部会を設立し、組織的な体制を築きました。その後、平成23年度より「学校自己評価報告書」を取りまとめ、平成24年度より本学園のホームページ上に公表しております。

また、平成25年度からは、本校に関係の深い方々からご意見等を頂戴し、今後の学校運営に反映させ、改善を図るべく「学校関係者評価」を実施しております。学校関係者評価委員会では、外部の視点に立った、多くの貴重なご意見、ご指導を賜り、改めて学校関係者評価の重要性を認識した次第です。ここに学校関係者評価の内容についてご報告いたします。

今後もより良い学校運営、教育活動を目指し、教職員一同尽力して参りますので、関係者の方々をはじめ皆様の、より一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年7月

学校法人上田学園 理事長 上田哲也

上田安子服飾専門学校 校長 田島 等

「学校関係者評価」の実施について

今回の学校関係者評価は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に則し実施した「平成30年度学校自己評価報告書」に基づき、4名の学校関係者評価委員の方々に評価して頂きました。

その内容等について要約の上、以下のとおり報告いたします。

II.令和元年度上田安子服飾専門学校 学校関係者評価委員会開催概要

1.日時

令和2年3月6日（土）10：00～12：30

2.場所

上田安子服飾専門学校本館

3.議事

(1) 令和元年度自己点検・評価報告書の概要説明

(2) 令和元年度事業報告書に基づき内容の説明

・産学官連携事業について

・国際交流について

(3) 令和元年度の教育活動進捗報告

4.出席者

・企業関係者・卒業生 日比吉彦 関西整染株式会社

・地域関係有識者 三島 保 大阪市北区商店会総連合会 副会長

・教育関係有識者 池田 知隆 一般社団法人大阪自由大学理事長

・学校運営有識者 石井 理之 大阪成蹊大学准教授（教育学）

・事務方 校長 田島 等

事務統括 小西 祐司

副校長 山田 浩之

副校長 東山 幹子

副校長 福田 新之助

ファッションクリエイター学科、ファッションクリエイターアドバンス学科、

ファッションクリエイター夜間学科学科長 大槻 剛

ファッションビジネス学科、ファッションビジネス・ストアマネジメント学科長 塩田 千織

ファッションプロデュース学科、ファッション工芸デザイン学科

スタイリングフォト学科長 佐山 孝典

学生部 部長 金森 晋一

5.配布資料

(1) 学校関係者評価委員会構成

- (2) 令和元年度 上田安子服飾専門学校 自己評価報告書
- (3) 令和元年度 上田安子服飾専門学校事業報告書（抜粋）

Ⅲ.外部評価委員からの評価と提言

自己評価報告書と添付資料に見る本校の教育の現況等について学校から説明を行い、これに対する評価・提言を外部評価委員に求めた。自己報告書全体を説明するとともに、

ガイドライン項目3 - 教育活動

ガイドライン項目4 - 教育成果

ガイドライン項目6 - 教育環境

ガイドライン項目10 - 社会貢献

についてとくに意見・提言があった。

この4項目についての学校側の説明要旨と外部委員の評価・提言は以下のとおり。

○ ガイドライン項目3 - 教育活動について

【学校の説明要旨】

・資料をもとに各学科の産官学連携プログラムについて報告した。

クリエイター、クラフト「もの作り分野」の連携に関しては事業の事前または事後に素材産地の見学を必須としている。またビジネス系の連携に関しても素材産地の見学・商品企画提案のプログラムが実現した。

【外部評価委員からの評価と提言】 ⇒部【本校担当者からの回答】

● ファッション・プロデュース学科

- ・「富岡製糸場博物館」展示プロジェクトは、学校の強みを生かした取り組みとして興味深い。大学等と連携し、日本の繊維産業の歴史について実践的に学んだことで、学生の意識にも変化があるのではないか。（石井委員）

⇒連携先である京都工業繊維大学、東洋きもの専門学校や各地の郷土資料館等の協力を得て見学できたことで、研究と学びのフィールドを広げることができた。

- ・オーガニックコットン生地製造企業との連携による商品企画の取り組みで、サステナビリティについて学んだことは意義があると思う。産地でも、これによって商品の付加価値を高めることを考えてきている。クリエイターや他学科ではどうか。

（日比委員）

⇒ファッションクリエイター学科では古着リメイクを手がける企業との連携によるプログラムが実現している。業界にとっての大きな課題となっており、今後も産官学連携の担当が中心となって研究を進めたい。

● トップクリエイター学科

・「パリ・ファッションウィーク」の発表で行ったギャラリープレゼンはどう展開していくのか。(池田委員)

⇒日本でもブランド展開しているイネス氏に来場いただくなど話題となり、展示会でも成果を上げることができた。現地業者と連携して継続していきたい。

・フランス LVMH 社のコンテスト「グラデュエートプライズ」に向けての制作は世界を視野に入れた教育として評価できる。(石井委員)

●ファッションクリエイター学科

・進化型古着屋「森」との連携により古着のリメイクを発表し評価を受けたことは、1年次の早期から業界を知ることができる良い取り組みだ。持続可能性について意識することにもつながる。(日比委員)

・舞台衣装コースのアイドル衣装や演劇衣装の取り組みが多いが、カリキュラムに支障はないか。(石井委員)

⇒カリキュラム内で消化できるよう教員が内容を精査し、無理のないものだけお引き受けしている。また少人数で受けられるものについては校内で希望者を募り、課外で制作したこともある。

●ファッションクリエイターアドバンス学科、ファッションクリエイター夜間学科

・いずれも限られた時間の中で企業等との連携を実施していることは評価できる。とくに夜間学科の学生が参加できるプログラムを工夫してほしい。(三島委員)

⇒土曜日に夜間部対象の特別講座を実施し充実に努めている。

●ファッションクラフトデザイン学科、ファッション雑貨デザイン学科

・他学科に先駆けて、企業や産地との取り組みを推進し、継続していることは評価できる。就職先を開拓するなどして学科の拡充に努めてほしい。(三島委員)

●ファッションビジネス学科

・スタイリストコースが取り組んだ関西支援学校の学生とのコラボレーションスタイリングショーは、ファッションの持つダイバーシティの意味を学べる機会となり意義深いと思う。社会貢献につながる取り組みを増やしてほしい。(池田委員)

○ ガイドライン項目4 - 教育成果について

【学校の説明要旨】

・資料をもとに各学科の休・退学率、就職率、就職先データについて報告した。

【外部評価委員からの評価と提言】

・全体の就職率に比してクリエイター学科の就職率がやや下回っていることは残念である。
⇒連携事業等をとおして業界のニーズを把握するとともに個々の学生に対しての指導を強化する。

○ ガイドライン項目6 - 教育環境について

【学校の説明要旨】

- ・事業報告書に基づき、ITC 環境や教室の整備等について説明した。

【外部評価委員からの評価と提言】

- ・縫製実習教室の整備は進んでいるが、ビジネス系学科の教室の整備についてはどうか。

(石井委員)

⇒販売演習授業やブライダル専攻授業に対応できる教室の整備を計画している。

○ ガイドライン項目 10 - 社会貢献について

【学校の説明要旨】

- ・大阪市北区商店会総連合会のボランティア、大阪市曾根崎警察署との取り組み等について説明した。

【外部評価委員からの評価と提言】

- ・スタイリストコースの野外ファッションショーなど、外に開かれた学校をアピールできる機会を通じて街の活性化につなげてほしい。また支援学校等との連携にみられるような、人々の「多様性」に対応できるファッションについても研究してほしい。

(三島委員)

○ ガイドライン項目 11 - 国際交流について

【学校の説明要旨】

- ・各学科の国際交流の実績について報告した。

【外部評価委員からの評価と提言】

- ・マレーシアやモンゴル等、アジアの国々との連携が拡充しているのは評価できる。今後どのように取り組んでいくのか。(石井委員)

⇒短期・長期の留学生を受け入れる仕組みを検討している。

以上であり、外部評価委員より示された提言については、所轄部署においてこれを踏まえ改善策を検討するものとする。その他の項目について自己評価報告書は適当であると認められた。

以上